

科目名	部落解放のフロンティア	単位数	2	授業形態	講義	担当 教員	齋藤 直子 (人権C 特任)
英語表記	Frontiers of Buraku Liberation						谷元 昭信 (非常勤) 大北 規句雄 (非常勤)

### ● 科目の主題

本講義は、部落解放のフロンティア（最先端）で活躍する2名の講師を招き、いま部落問題において、何が問題であり、どのような取り組みがなされているのかを学ぶ。

部落解放運動の歴史は、日本の社会運動においても主要な位置を占めており、その動向を知るとは、この社会が人権を守る社会になるためのビジョンを、われわれに教えてくれるだろう。

部落問題は、「古い」問題ではない。日本社会の変容とともに、あるいは部落そのものの変容とともに、新しい視角や新しい課題がみえてくる。実践の最先端にいる講師に、最新の状況について講義してもらおう。

### ● 授業の到達目標

部落解放の最先端で活躍する2名の講師の講義を通じて、人権が守られる社会とはどのようなものか、そのような社会が構築されるために担えることは何かといった点について、受講者自身がビジョンを持てるようになることが本講義の到達目標である。

### ● 授業内容・授業計画

本講義は、オムニバス形式でおこなう。齋藤直子(本学、人権問題研究センター)が全体をコーディネートする。

本講義は、受講生がすでに部落問題の基礎知識を有していることを前提としてすすめる。大学入学までに十分な同和教育・部落問題学習を受けていない人は、前期に『部落差別の成立と展開』や『現代の部落問題』などを受講するか、部落問題についての基礎的な文献を読んで勉強しておくことを強く希望する。

授業計画は次の通りである。

第1回目：[齋藤担当] 部落解放運動の歩みを振り返る

第2回目：[谷元担当] 谷元先生講義のイントロダクション

第3回目：[谷元担当] 部落差別の実相と現状に関する認識論

第4回目：[谷元担当] 明治維新以降の部落差別の実態変遷

第5回目：[谷元担当] 部落差別を生み出す社会的背景への考察

第6回目：[谷元担当] 部落解放運動の歴史と日本の社会運動

第7回目：[谷元担当] 部落差別克服への基本方向と課題

第8回目：[谷元担当] 谷元先生講義のまとめ

第9回目：[大北担当] 排除と隔離の100年を問う

第10回目：[大北担当] 2000年大阪府部落実態調査が示したもの

第11回目：[大北担当] セツルメントから隣保館へ

第12回目：[大北担当] 福祉と人権のまちづくりへの挑戦

第13回目：[大北担当] 部落の経験を社会発展の糧に

第14回目：[齋藤担当] 識字や聞き書きの実践と「社会運動」

第15回目：[齋藤担当] まとめと補足的な講義

### ● 事前・事後学習の内容

受講生にはレジュメ集を配布するので、各講義分のレジュメと資料を通読すること。事後学習としては、レジュメおよび資料を再読し、講義の内容を確認しなおすこと。それを踏まえて、コミュニケーションカードに書いた内容について、考えを深めること。

### ● 評価方法

出席、毎回提出してもらうコミュニケーション

ンカードの内容、2名の講師それぞれが課す課題から総合的に評価する。

#### ● 受講生へのコメント

実際に、部落解放運動の現場で活躍されている方々に講師になっていただき、実践的な立場からの議論を展開する講義である。その議論を十分に理解するためには、受講生は基礎的な部落問題の知識が必要である。したがって、前期に『部落差別の成立と展開』や『現代の部落問

題』などを受講したり、部落問題関連の書籍をあらかじめ読んでおくことを強く希望する。

#### ● 教材

それぞれの講師が、講義レジュメを配布する。なお、2名の講師それぞれの初回にあたる第2回と第9回には、レポートの課題についての説明があるので、必ず出席してもらいたい。

参考文献は、講義レジュメを参照されたい。